

弘前市立博物館

ニュースレター

No. 18

Hirozaki City Museum Newsletter

■企画展3「佐野ぬい追悼展」開幕いたしました

3月に入り日も長くなってきましたが、まだまだ寒い日が続きます。青空が見える暖かな春が待ち遠しい日々です。

当館では、企画展3「佐野ぬい追悼展 monochrome、そしてblue」が2月22日(土)から始まりました。弘前市出身の洋画家・佐野ぬい(1932～2023)は、青色を基調とした抽象画を描き「青の画家」と称されます。当館では、1986年、2015年に佐野ぬい作品の特集展示を行うなど、生前より大変お世話になりました。今回の展示では、当館で所蔵している佐野ぬい作品を全て展示しております。皆様には、ぜひ当館に足をお運びいただき、ぬいさんの作品に親しんでいただけたら幸いです。

さて、企画展2「いのちなりけり 没後250年 建部綾足」が2月2日(日)をもちまして、無事に閉幕することができました。会期中は近年稀にみる大雪の影響もあり、交通の乱れなどもございましたが、1,513人という大勢の方にご来館いただきました。ここに御礼申し上げます。

当館では、令和7年度も様々な展示や企画で皆様をお迎えいたしま

す。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(館長 熊谷)

■企画展3「佐野ぬい追悼展」見どころ紹介

ここでは、佐野ぬいの略歴と本展の注目ポイントについて、ご紹介いたします。

・「青の画家」佐野ぬい

佐野ぬいは、青森県そして現代日本を代表する抽象画家の一人です。弘前市の百石町(実家は現・株式会社ラグノオささき)で生まれました。青森県立弘前中央高校を卒業後、女子美術大学への進学を機に上京し、本格的に画家への道を歩み始めます。その後、東京を拠点に日本、海外で活躍いたしました。

その画風は、「佐野ブルー」、「nuit blue(ニユブルー)」とも呼ばれる、独特な青色を基調にした明快な色彩とフォルムであり、抽象表現において独自の世界を確立しました。2003年損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞の他、受賞歴は多数です。少女時代からの憧れの地であるフランス・パリで個展を開催するなど、国内外で大いに活躍しました。また長年にわたり母校・女子美術大

学で教鞭をとり、2007～2011年には学長を務め、後進の育成、そして日本美術の発展のために尽力しました。

長年の功績から、2012年には瑞宝中綬章を受章し、2015年には弘前市名誉市民となりました。最晩年まで意欲的に制作に取り組み、2023年8月に惜しまれつつも逝去されました。

・注目ポイントその1「スペース・トゥデイ ポスター／スタンプ原画」

当館では、1986年に佐野ぬいの特集展示である企画展「スペース・トゥデイ 佐野ぬい展」を開催し、その際に、ポスター、記念スタンプ用に原画を描き下ろしていただきました。当館にとって思い出深い作品たちです。ポスター原画は2枚ご制作いただき、その内の1枚が実際のポスターに採用されました。スタンプ原画は、当時の記念スタンプもあわせて展示しています。



▲ポスター原画(左が当時のポスターに掲載)

博物館公式
instagram



最新の博物館情報、発信中！



博物館公式
Facebook



▲スタンプ原画と当時のスタンプ

なお、1986年では、1カットのみをスタンプ化しましたが、今回の展示では、5カット全てを記念スタンプにいたしました。佐野ぬいカラーであるブルーのインクで、スタンプが押せますので、作品と一緒に楽しみください。

・注目ポイントその2「佐野ぬいアトリエ再現」



▲佐野ぬいアトリエ再現コーナー

佐野ぬいは、東京久我山にアトリエを構え、生涯を通じてこの地で、制作を行いました。アトリエには、「故郷忘(ぼう)じ難し」と書き添えた岩木山の絵をずっと掛けていたそうで、生涯にわたり弘前そして津軽を愛し思い続けていたようです。

このコーナーでは、実際に使っていた、絵筆・イーゼルなどの道具類の他、アトリエ内に置かれていたお気に入りの家具など、遺愛の品を展示します。作品とともに作家の制作

に対する思いを感じていただければと思います。

・注目ポイントその3「弘前ねぶた」

青色を背景に、弘前ねぶたが描かれた作品です。抽象画で知られる佐野ぬいですが、本作では、扇形のねぶた、祭りに参加する男女を具象化して描いています。ぬいさんにとって、ねぶたは故郷の祭りというだけではなく、絵描きとしても、興味の対象であったようです。特にねぶた絵の「見送り美人」を描いてみたかったと自著で語っています。

東京のアトリエに遺されていた作品であり、展覧会でのお披露目は、今回が初めてとなるそうです。故郷弘前を愛し続けたぬいさんの思いがよく表れた作品です。



▲佐野ぬい「弘前ねぶた」(一般財団法人 nuit・company 蔵)

・注目ポイントその4「セルリアンブルーの街」

青森県内初公開となるこの作品は、佐野ぬいが描いた最後の大型作品です。横幅は2mを超える大作であり、大病からの復帰をかけ、車いす生活の中、絵筆を長い棒の先にくくり付けて描き上げました。最晩年とは思えない作家のバイタリティと

情熱がうかがえます。

複数の青色が溶け合うように描かれた本作は、見る角度や照明によってその表情を変化させます。写真では伝えきれない、大胆ながらも微細な色遣いを、ぜひ展示室にてご覧ください。



▲佐野ぬい「セルリアンブルーの街」
2022年(一般財団法人 nuit・company 蔵)

(学芸員 高橋)

■佐野ぬい追悼展 グッズ紹介☆シ



▲佐野ぬい追悼展グッズ

T シャツ、エコバッグ、クリアファイルなどが販売中です！ご自宅でも佐野ぬい作品を眺めてみてはいかがでしょうか。

■4月までの休館日のお知らせ

3月17日(月)、4月21日(月)
上記期間は博物館の利用ができません。あらかじめご了承ください。